

日本教育メディア学会

学 会 通 信

第 49 号

学会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jaems/>
2009年8月15日発行

事務局

〒184-8501

東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学教育学研究室内

電話:042-329-7344

E-mail: shijaems@u-gakugei.ac.jp

2009年度定例総会開催通知（会告）

下記により、2009年度日本教育メディア学会定例総会を開催致します。会員各位のご出席をお願い致します。なお、ご出席されない方は、同封の「委任状」はがきにお名前・議案の賛否・ご捺印の上、50円切手を貼って、9月8日（火）必着で、学会事務局あて折り返しご投函ください。

記

正会員各位

2009年8月10日
日本教育メディア学会
会長 生田 孝至

1. 日 時 : 2009年9月12日（土） 13:00～13:40 （第1日目）
2. 会 場 : 新潟大学教育学部講義棟<204 講義室>
3. 内 容
 - (1) 議案
 - ・ 第1号議案（2008年度事業報告及び収支決算承認の件）
 - ①機関誌発行
 - ②年次大会の開催
 - ③学術交流等—研究会等の開催
 - ④2008年度収支決算（案）、監査報告
 - ・ 第2号議案（2009年度事業計画及び収支予算承認の件）
 - ①機関誌発行
 - ②年次大会の開催
 - ③学術交流等—研究会等の開催
 - ④2009年度収支予算書（案）
 - ・ 第3号議案（会長、理事、監事承認の件）
 - ・ 第4号議案（「会則」改正承認の件）
 - (2) 新会長挨拶及び新役員（総務担当理事、会計担当理事、研究会担当理事、編集担当理事等）紹介
 - (3) 表彰「日本視聴覚教育協会・井内賞」審議経過と結果報告
 - (4) 2010年度年次大会
 - (5) その他

■■■ JAEMS2009 Niigata ■■■

第16回日本教育メディア学会年次大会のご案内

新潟大学を会場に開催される第16回日本教育メディア学会年次大会が、来る平成21年9月12日(土)・13日(日)に迫ってまいりました。先日、研究発表を募集いたしましたところ、課題研究発表・自由研究発表とも多くの方からお申し込みを頂き、実行委員会一同喜んでおります。当日は、新潟大学五十嵐キャンパスにて、活発な交流が行われることを期待しています。日程等につきまして、以下ご案内いたします。

(大会実行委員会)

▼開催期日・会場等

期日：平成21年9月12日(土)、13日(日)

会場：新潟大学教育学部(新潟市西区五十嵐2の町8050)

①研究発表：新潟大学教育学部講義棟

②懇親会：新潟大学生協第1食堂

▼大会日程

	時間	プログラム	会場
9月11日(金)	14:00-15:30	編集委員会	ガレツソホール(東横イン*)
	16:00-17:30	現理事会	ガレツソホール(東横イン*)
	18:00-20:00	新理事会	ガレツソホール(東横イン*)
9月12日(土)	9:30-10:00	受付	教育学部講義棟玄関 控え室・クローク 105講義室
	10:00-12:00	自由研究発表	201, 202, 203, 204講義室
	12:00-13:00	昼食	控え室・クローク 105講義室
	13:00-13:40	総会	204講義室
	14:00-15:30	シンポジウム	204講義室
	15:40-17:40	課題研究発表 I, II, III 開催校企画	201, 202, 203, 204講義室
	18:00-19:30	懇親会	生協第1食堂
9月13日(日)	9:00-9:30	受付	
	9:30-11:30	自由研究発表	201, 202, 203, 204講義室
	12:00-13:00	昼食	控え室・クローク 105講義室
	13:00-15:00	自由研究発表	201, 204講義室

<備考>

*)ホテル「東横イン新潟駅前」

▼大会参加者へのご案内

1. 受付

受付場所……教育学部講義棟玄関

受付時間……9月12日（土）9:30-、13日（日）9:00-

大会参加費等

一般会員（発表論文集代を含む）	5,500円
学生会員（発表論文集代を含む）	3,500円
一般（非会員）参加者（発表論文集代を含む）	4,000円
懇親会費	5,000円

名札……受付で名札をお渡しします。所属及び氏名をご記入の上、大会期間中の会場内では必ず名札をお付け下さい。

※事前の参加申込は、7月24日（金）をもって締め切りました。参加費の払込がまだの方は、当日受付にてお支払い下さい。

2. 参加者控室

参加者の控室は105講義室にご用意しました。湯茶等は控え室にてご利用いただけます。校内は、禁煙になっておりますので、指定場所にてご喫煙下さい。

3. 総会

9月12日（土）13:00-13:40 に、204講義室で総会を行います。

4. 懇親会

9月12日（土）18:00～19:30 に新潟大学五十嵐キャンパス生協第1食堂におきまして懇親会を開催いたします。皆様お誘い合わせの上ご参加下さい。会費は5,000円です。

5. 昼食・宿泊

会場周辺のレストラン、食堂などをご利用ください。学内にはコンビニもございますので、ご利用ください。また、宿泊の手配は各自でお願いします。

6. 新型インフルエンザについて

新型インフルエンザの感染拡大防止のために、大学が封鎖となった場合、大会を中止する可能性もございます。最新の情報を日本教育メディア学会ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaems/>) でご確認の上、お出かけ下さいますよう、お願い申し上げます。

▼研究発表者（課題研究・自由研究）へのご案内

1. 発表までの準備

- ・発表者（登壇者）は本学会の会員であることが必要条件です。また、2009年度の年会費の納入がお済みかどうか、今一度ご確認下さい。未納の方は、学会事務局受付でお払い込み下さい。
- ・会員1名が発表できる件数は、課題研究1件、自由研究1件、計2件までです。
- ・発表申込及び原稿送付は、7月24日（金）をもって締め切りました。

2. 発表当日

- ・各会場には、セッションの進行を行う「座長」（課題研究は「コーディネータ」）を置きます。
- ・自由研究の発表時間は1件あたり20分（発表15分、質疑応答4分、交代1分）とします。座長が、15分で1鈴、20分で2鈴の合図をします。発表時間の厳守をお願いいたします。
- ・配布資料がある場合、セッション開始前に座長にお渡しください。座長が資料を配布いたします。
- ・各会場に、MS Office XPがインストールされたWindowsパソコンとプロジェクタを用意します。利用可能な媒体は、USBメモリまたはCD、DVDです。これ以外の機材、ソフト等を使用する場合及びハンドアウトなど配布資料は、各自でご準備ください。発表が円滑に行われますよう、プレゼンテーションが動作するかセッションの開始前に必ずテストを行っていただきますよう、お願い申し上げます。また、ご持参いただいたPCをプロジェクタに接続される場合は、プロジェクタ側の能力に応じてPC側の設定を変更する必要がある場合がありますので、特にご注意くださいよう、お願い申し上げます。

15分経過＝1鈴（発表終了）

20分経過＝2鈴（質疑終了、交代）

座長・コーディネータへのお願い

- ・自由研究はセッション毎にお二人の座長をお願いしております。事前にご相談の上、進行をお願いいたします。
- ・複数のセッションが同時並行で進みますので、予定時間での進行にご協力をお願いいたします（他のセッションから途中で移動される方がおります）。
- ・急な発表取り消し、欠席者が出た場合にも、発表時刻の繰上げは行いません。空いた時間は座長の裁量で質疑・討論等に当ててください。
- ・座長はタイムキーパーを兼ねていただきます。ストップウォッチを用意しますので、お使い下さい。
- ・課題研究の発表時間等は、コーディネータにお任せします。

3. 会場までのアクセス

(1) 新潟駅からのアクセス

- ・JR越後線：新潟駅～新潟大学前駅下車（20分）、新潟大学まで徒歩（15分ほど）

新潟大学前駅から新潟大学までの徒歩のルートは距離も長く、急な階段もございます。

新潟大学前駅の次の駅である内野駅までJR越後線をご利用いただき、内野駅前からタクシーをご利用になることをお勧めします（内野からのタクシー代は1,000円以内）。行き先は「新大西門」または「新大理学部」と指定するとよいと思います。

- ・新潟交通バス：新潟駅前バスターミナル～新大西門下車（45分、460円）

曜日	行き先	時刻
	新潟大学経由	西小針経由
	内野営業所行	新潟大学行
5		
6		40 50
7	30	10 50
8	40 50	05 10 20
9	20	30 50
10	10 30	50
11	10 40	30 50
12	30	10 40
13	20 50	40
14	30	20 50
15		20 40
16	30	10 40 45
17	40	20 50
18		30 50
19	30	10 40
20	00 40	20 50
21	35	15
22	15	
23	20	
24		

曜日	行き先	時刻
	西小針経由	新潟駅前先行
5		
6	43	
7	18 37 52	
8	02 17 37 57	
9	22 27 37 57	
10	27 47	
11	07 27 47	
12	07 27 47 57	
13	17 27 47	
14	07 27 47 57	
15	22 27 42 47	
16	02 12 27 47	
17	12 17 37 47	
18	17 37 57	
19	27 47	
20	18	
21	18 48	
22	18	
23		
24		

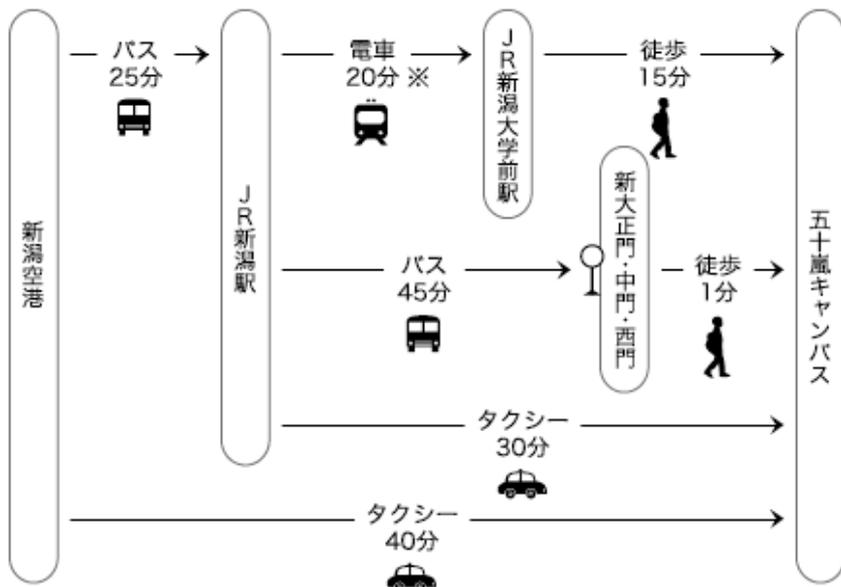
タクシー：新潟駅～新潟大学（30分）

(2) 新潟空港からのアクセス

- ・新潟交通バス：新潟空港～新潟駅（25分）、その後バス・JR線・タクシー
- ・タクシー：新潟空港～新潟大学（40分）

（注）左記時刻表は、本通信発行時点です。
各自、駅あるいは大会事務局掲示板等でお確かめください。

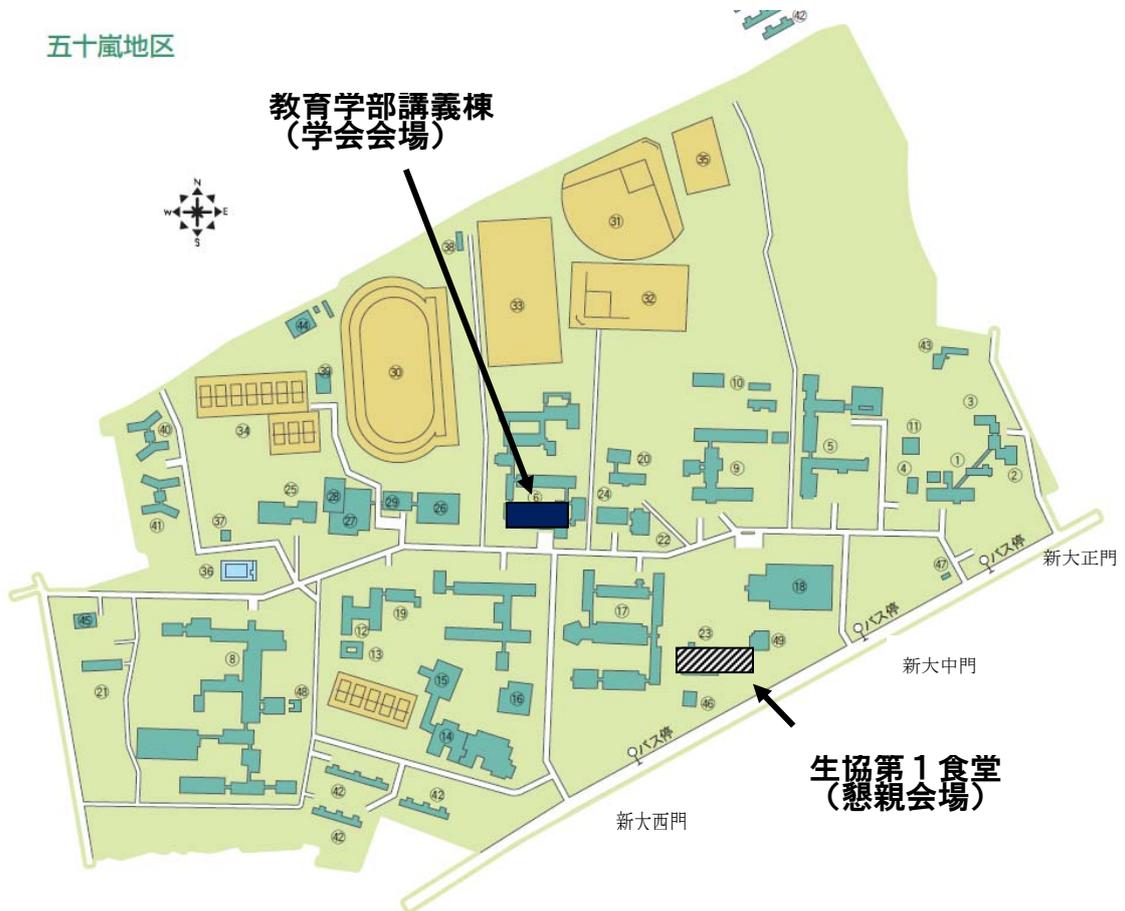
■五十嵐キャンパス



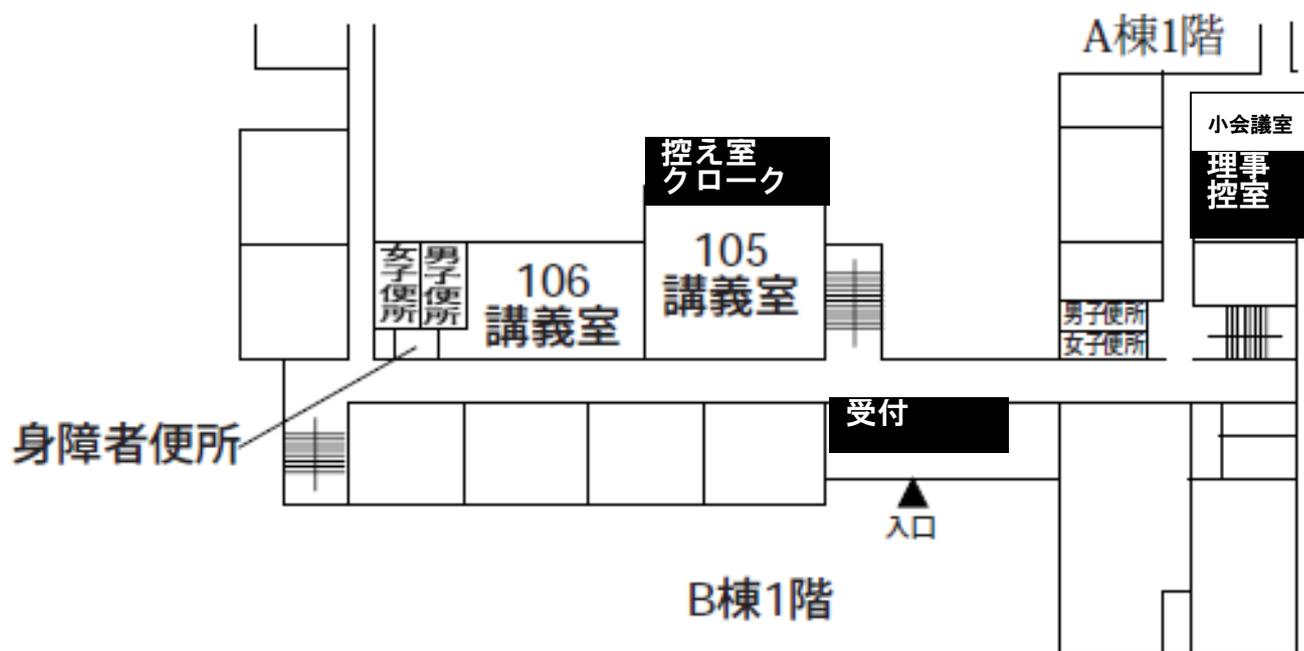
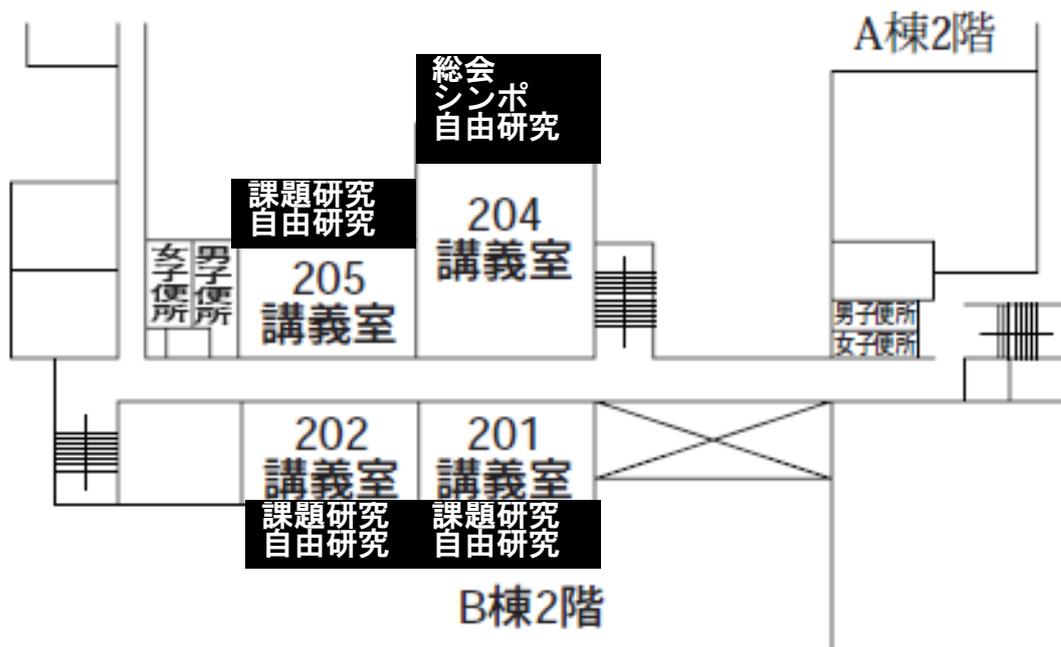
新潟駅から新潟大学までのアクセス



新潟大学（五十嵐キャンパス）建物配置図



教育学部講義棟 講義室配置図



新大正門・新大西門を入ると、新潟大学五十嵐キャンパスで最も高い9階建ての白い建物(教育学部)が目に入ります。

新大正門からでしたら、本部、人文学部・経済学部、農学部、生協第二食堂の次が教育学部です。

新大西門からですと、通りに入っすぐ教育学部がみえますので、そのままお進み下さい。

大会プログラム・第1日・9月12日(土)

自由研究 J1 (204 講義室) 9月12日 10:00-12:00

座長：南部昌敏(上越教育大学) 影戸 誠(日本福祉大学)

J1-1 中学校数学空間図形領域における複合現実感教材の効果

安田洋介(上越教育大学大学院) 南部昌敏(上越教育大学)

近藤智嗣(放送大学)

J1-2 初等教育における対話を通じた学びあいを重視したコンテキストのデザイン

○岸 磨貴子(関西大学大学院) 三宅貴久子(関西大学)

今野貴之(関西大学大学院)

J1-3 児童による物語文の挿絵が登場人物のイメージに与える影響についての検証

○鈴木 彰(横浜市立大綱小学校) 中川一史(放送大学)

J1-4 メディア創造力を育む活用型学習のプロセス 第4学年「新聞記者になろう」

○前田 康裕(熊本市立飽田東小学校) 中川 一史(放送大学)

中橋 雄(武蔵大学) 佐藤 幸江(横浜市立高田小学校)

J1-5 CALL 活用と国際協働学習の連携

○影戸 誠 佐藤 慎一(日本福祉大学)

自由研究 J2 (201 講義室) 9月12日 10:00-12:00

座長：加藤 隆弘(金沢大学) 加藤 由香里(東京農工大学)

J2-1 実践者自身が撮影する写真を用いた、授業の分析・改善手法の開発①

加藤 隆弘(金沢大学) 中川一史(放送大学) 寺嶋浩介(長崎大学)

下田 純也(カシオ計算機株式会社)

J2-2 初年次必修科目「日本語表現」におけるメディア教材の利用とその効果

毛利 美穂(大手前大学)

J2-3 大学生のパソコンとケータイの利用パターンとケータイ利用スキル

石川 勝博(常磐大学)

J2-4 教員研修におけるブレンデッド型 e-learning 教材の作成

○白鳥 義明 岡本 覚子 栗田るみ子(城西大学)

J2-5 授業研究による協同的な教育改善を支援する教師連携の構築

○加藤 由香里 福原いずみ

庄司 雅彦 金勝 一樹 三沢 和彦(東京農工大学)

自由研究 J3 (205 講義室) 9月12日 10:00-12:00

座長：浦野 弘 (秋田大学) 寺嶋 浩介 (長崎大学)

- J3-1 小中学校における映像制作カリキュラムの位置づけに関する研究
○寺嶋 浩介 粟戸 小百合 (長崎大学) 内垣戸 貴之 (福山大学)
黒上 晴夫 (関西大学)
- J3-2 文科系学生に対するモーショングラフィックス制作と映像リテラシー教育の実践
川瀬 基寛 (甲南女子大学)
- J3-3 ドキュメンタリー制作の教育的価値
坂本 旬 (法政大学)
- J3-4 博物館学ビデオ教材の開発と公開
○野村正弘 塚本美恵子 (駿河台大学)
- J3-5 公立中学校における校内授業研修会の持ち方に関する意識の調査
浦野 弘 (秋田大学)

自由研究 J4 (202 講義室) 9月12日 10:00-12:00

座長：岡部 昌樹 (金沢星稜大学) 鈴木 克明 (熊本大学大学院)

- J4-1 外国語活動と関連づけた交流学习モデルの検討
○泰山 裕 遠海 友紀 (関西大学大学院) 久保田 真弓 (関西大学)
- J4-2 遠隔授業システムの有効活用に関する実践的な研究 -教授・学習行動の改善による相互
交渉性の促進-
岡部 昌樹 (金沢星稜大学)
- J4-3 双方向遠隔授業の改善
瀬川 良明 (北海道教育大学)
- J4-4 同期型教育へのチャット導入に向けた予備的考察
○八木 秀文 鈴木 克明 (熊本大学大学院)
- J4-5 「学びたさ」の設計を支える研究の動向
鈴木 克明 (熊本大学大学院)

シンポジウム「現代社会におけるメディアの影響ーケータイと子どもの関係を問う」(公開)

(204講義室) 9月12日 14:00-15:30

コーディネータ：生田 孝至 (新潟大学)

高度通信情報社会は従来のメディアと人との関係を、一方向性のコミュニケーションから双方性のコミュニケーションに変化させるとともに、送り手の顔が見えない匿名性の高いサイトへのアクセスをも可能とした。ケータイの機能は高度になり便利になるとともに、有害サイトへのアクセス、裏サイトでのいじめなど、子どもたちにとって良くない影響をもたらしている。学校へのケータイ持ち込み禁止などによる対応がなされているが、社会の進展は子どもの世界から完全にケータイを締め出すことは困難であろう。このシンポジウムでは、ケータイと子どもの関係を、メディア論、メディア教育、子どもとメディアといった識者の見解を手掛かりにこの課題を検討する。

S-1 メディア影響研究の新展開に向けて～テレビ時代以降の研究動向分析を基に～

小平さち子 (NHK放送文化研究所)

S-2 日本のケータイ・コミュニケーションを編みかえる：モバイル文化とリテラシーのデザイン論

水越 伸 (東京大学)

S-3 学校におけるケータイに関する指導の考え方：「メディアとのつきあい方学習」の観点から

堀田 龍也 (玉川大学)

課題研究 I 日本の教育メディア研究に尽くした人たち

(204 講義室) 9月12日 15:40-17:40

コーディネータ：中野 照海 (元国際基督教大学)

私たちは教育メディア研究に関わって、先人たちの研究を参考にして研究と実践を進めてきた。この過程で、私たちが参考とした研究者、例えば、デール、波多野完治、スキナー、ブルーナーなどの先輩を取り上げて、その教育思想、メディア研究へのかかわり、今後の研究への示唆などを紹介する。この場合、かならずしも、著名な大家に限らず、自分が興味を持ち、影響された人たちを取り上げることも歓迎である。

K1-1 セサミストリークの誕生とフォーマティヴ・リサーチ

上田 信行 (同志社女子大学)

K1-2 ハイパーメディアの出現と新たな教育課題

吉田 広毅 (常葉大学)

K1-3 教育放送番組制作に影響を与えた人たちーテレビ教育番組は教材特性をどうとらえてきたかー

市川 昌 (江戸川大学)

K1-4 我が国の視聴覚教育の発展に尽くした人々ーE.デールの経験の円錐ー

中野 照海 (元国際基督教大学)

課題研究Ⅱ 授業を豊かにするメディア

(202 講義室) 9月12日 15:40-17:40

コーディネータ：宇佐美 昇三 (日本大学)

ビデオ、パソコン、プロジェクタ、パワーポイントなどのハード・ソフトの進歩は授業や演示の技術を大いに向上させた。しかし、授業でそれらがどのような考えで、どう使われているかについて、十分に吟味されているとは言い難い。授業を豊かにするという視聴覚教育の原点に立ち返り、実例に基づいて検討したい。その際、1. いっそう進んだメディアの使い方、2. 授業形態自体の改革、3. 電子機器を全く使わないで進める教育活動といった視点を手がかりとしたい。教育現場にとって授業とはなにか、メディアによって授業がいかに豊かになるのかを改めて問いたい。

K2-1 携帯写真ワークショップから見るメディア・リテラシー教育の課題と方向性

○中村 純子 (東京学芸大学大学院) 斎藤 俊則 (日本教育大学院大学)

K2-2 チョークと黒板による対面式一斉授業を支援する電子教材 - 小学校英語の電子化と電子黒板 -

田淵 龍二 (ミント音声教育研究所)

K2-3 電気を一切使わないメディア教育授業の試みーピンホールカメラと日光写真を使うメディア学習カリキュラムー

西貝 雅人 (NHK アイテック)

K2-4 リアルコミュニケーションツールを利用した参加体験型活動プログラムの研究

効宿 俊文 (青山学院大学)

課題研究Ⅲ テレビ離れとインターネット視聴

(201 講義室) 9月12日 15:40-17:40

コーディネータ：村野井 均 (茨城大学)

若者のテレビへの関心が弱くなり、テレビを見ないだけでなく、番組欄を調べない者もいるようになった。視聴者がザッピングを行うので、放送局が対策として細切れな番組を作り、それが視聴者のテレビ離れを引き起こしたというだけでは説明できない現象が起きている。なぜテレビを見ないのか、ネット視聴の実態はどうなっているのか、若者だけの現象なのかなど、実態把握を急ぐ必要がある。研究の少ない領域であるため、パイロットスタディーや試論を出し合いたい。

K3-1 今どきの子育て世代のテレビ利用スタイルについて考える

森田 健宏 (夙川学院短期大学)

K3-2 テレビとインターネットの未来 ~新しいメディアミックスに向けて~

大西 誠 (愛知淑徳大学)

K3-3 メディア視聴における選択行動 - 高校生の実態調査の検討から -

上松 恵理子 (新潟大学)

- K3-4 M1・F1 層の視聴番組の傾向と視聴方法
小田 茂一（愛知淑徳大学）
- K3-5 若者におけるテレビとインターネット視聴の使い分け
村野井 均（茨城大学）
- K3-6 大学生のインターネット視聴に関する調査
中橋 雄（武蔵大学）

開催校企画 教師というメディア（公開）

（205 講義室） 9月12日 15:40-17:40

コーディネータ：丸山 裕輔（五泉市立大蒲原小学校）

教師はシナリオライターであり、演者であり、監督であり、時に観客でもあるといわれる。子供たちと授業を創造する過程において、教師は最大のメディアといってよい。教師というメディアが教科書を使い、資料を使い、活動を組織し、学習を促進する。メディアとしての教師は、成長によってのみその機能を発達させる。このラウンドテーブルでは、何が教師を成長させるのかについて、事例発表をもとに検討する。

- N-1 学級教科担任制を活かした6年国語科の実践—総合的な学習と関連付けた言語活動の工夫—
村上さおり（長岡市立栖吉小学校）
- N-2 教師の成長～二つの授業の比較を通して～
荻野 真美（新潟大学附属新潟小学校）
- N-3 アクションリサーチと教師の成長
高橋 健（村上市立村上南小学校）
- N-4 教師の成長とコミュニケーションスキル
青木 あゆ子（川崎市立宮崎台小学校）
- N-5 教師というメディアを考える
丸山 裕輔（五泉市立大蒲原小学校）
- N-6 教師というメディア
高野 榮（佐渡市立両津小学校）
- N-7 教師はどのようなメディアか
生田 孝至（新潟大学）

大会プログラム・第2日・9月13日(日)

自由研究 J5 (204 講義室) 9月13日 9:30-11:30

座長：浅井 和行(京都教育大学) 中橋 雄(武蔵大学)

- J5-1 特別支援学級におけるICT活用の実践と課題
○宮武 英憲 萩原 規子 荒木 匡(藤沢市立善行中学校)
松野成孝(松戸市立六実小学校)
- J5-2 メディア・リテラシー教育を阻害してきた要因に関する調査
○中橋 雄(武蔵大学) 中川一史(放送大学) 奥泉 香(日本体育大学)
- J5-3 メディア主導から、ヒト主導へ、電子授業の新展開 - 授業を豊かにする電子メディア-
田淵 龍二(ミント音声教育研究所)
- J5-4 イギリス・カナダ・オーストラリアにおけるメディア・リテラシー教育カリキュラムの比較研究
○浅井 和行(京都教育大学) 久保田 賢一 黒上 晴夫(関西大学)
- J5-5 フィンランドのメディア教育 北欧の教育視察を終えて
○久保田 賢一(関西大学) 黒田 卓(富山大学) 水越 敏行(関西大学)

自由研究 J6 (201 講義室) 9月13日 9:30-11:30

座長：篠原文陽児(東京学芸大学) 高田浩二(海の中道海洋生態科学館)

- J6-1 「音声について考える学習」における“音のカード”の活用
金子俊明(筑波大学附属聴覚特別支援学校)
- J6-2 水族館におけるi-Pod touchを活用した小学生との連携学習活用の試み
○高田浩二(海の中道海洋生態科学館) 中川一史(放送大学) 寺嶋浩介(長崎大学)
中橋雄(武蔵大学) 三宅基裕(海の中道海洋生態科学館)
- J6-3 子どもの避難行動に適したポータブルナビのインタフェース開発に向けた検討
森田健宏(夙川学院短期大学)
- J6-4 ダイバーシティ教育における多様な読み書き指導を実現するデジタルプラットフォームの開発
○近藤 武夫 中邑 賢龍(東京大学)
- J6-5 ICTの道具的利用及びICTと教授学の統合を具現化する教師教育カリキュラムの開発
篠原文陽児(東京学芸大学)

自由研究 J7 (202 講義室) 9月13日 9:30-11:30

座長：小笠原喜康（日本大学） 稲垣 忠（東北学院大学）

- J7-1 小学校における情報モラル授業評価の取り組みについて
野口 聡（関西大学大学院）
- J7-2 家庭と学校の連携を促進する情報モラル授業プランの開発
○稲垣 忠（東北学院大学） 三宅 貴久子（関西大学） 赤堀 侃司（白鷗大学）
山本 雅之（株式会社ジャストシステム） 中野 誠（NTT レゾナント株式会社）
- J7-3 高校生から中学生に情報モラルをプレゼンテーションする授業実践
○岡本 弘之（京都教育大学大学院） 浅井 和行（京都教育大学）
- J7-4 携帯メールを使った学生生活におけるマナー意識向上のためのシステムの提案
○田畑 圭介 國田 千恵子 小林 淳一 渡辺 直勇（金沢学院短期大学）
- J7-5 インターネット時代におけるメディアリテラシー理論の質的転換とその教材開発ーケイタイ問題の問い直しによってー
○小笠原喜康（日本大学） 村野井 均（茨城大学）
下田 好行（国立教育政策研究所） 朝倉 徹（東海大学）
前嶋 匠（茨城県立高萩清松高等学校）

自由研究 J8 (205 講義室) 9月13日 9:30-11:30

座長：菊江 賢治（NHK/ NHKエンタープライズ） 渡辺 誓司（NHK放送文化研究所）

- J8-1 教科書教材をメディア・リテラシーの観点から見る方法の検討 - 国語科教科書教材『ころ』(夏目漱石)を例として -
上松恵理子（新潟大学）
- J8-2 テレビアニメ番組の視聴制限は世代間で伝達できるか
○藤田 文（大分県立芸術文化短期大学） 三宅 正太郎（福山大学）
- J8-3 オアシスプロジェクトにおける教育用映像の大規模配信実証実験
菊江 賢治（NHK/ NHKエンタープライズ）
- J8-4 家庭科教育の教材作成におけるクラスメートというメディア
○菊地 紀子（帝京短期大学） 篠原文陽児（東京学芸大学）
- J8-5 小学校6年生教師のインターネットへの親和性とNHKデジタル教材利用
渡辺 誓司（NHK放送文化研究所）

自由研究 J9 (204 講義室) 9月13日 13:00-15:00

座長：後藤 康志 (新潟医療福祉大学) 青木和彦 (日本 IBM 人財ソリューション)

- J9-1 e-Learning の企業内開発に関する事例研究
青木 和彦 (日本 IBM 人財ソリューション)
- J9-2 実体験と情報共有を基にした情報モラル指導に関する実践 ー小学5年 総合的な学習「チャットを正しく使おう」の事例を通してー
長谷川 春生(兵庫教育大学大学院) 久保田 善彦 (上越教育大学大学院)
- J9-3 電子メール等の情報コミュニケーションについての諸問題ならびに教育手法に関する検討
森屋 裕治 (名古屋女子大学)
- J9-4 通時的分析を組み入れたメディアに対する批判的思考力の育成
後藤 康志 (新潟医療福祉大学)

自由研究 J10 (201 講義室) 9月13日 13:00-15:00

座長：西原 康行 (新潟医療福祉大学) 丸山 裕輔 (五泉市立大蒲原小学校)

- J10-1 高等学校公民科における合理的意思決定型授業開発研究ー複雑な社会問題を論理的に読み解くための情報分析と整理ー
田中 一裕(新潟県立長岡高校)
- J10-2 ICT を活用した教員研修に関する事例研究
丸山 裕輔 (五泉市立大蒲原小学校)
- J10-3 メディアとしての教科書編纂
山口和歌子 (前日本文教出版)
- J10-4 体育教師の認知におけるオンゴーイング法の有効性
○西原 康行 (新潟医療福祉大学) 生田 孝至 (新潟大学)



◆ 編集委員会からのお知らせ ◆

機関誌『教育メディア研究』への投稿原稿募集

学会の機関誌「教育メディア研究」は、常時、投稿原稿を受け付けております。

学会ホームページから、投稿に必要な書類をダウンロードし、原本とコピーを含めて4部、原本の記録されたフロッピーディスクあるいはCD-ROM、投稿票、書留による郵送（封筒の表に「論文投稿原稿在中」と朱筆する）など、必要事項を十分にご確認の上、ご投稿ください。査読、編集、刊行を定期的及び迅速に進めるため、ご協力をお願いいたします。

なお、表記の方法など詳細は以下に記す投稿規定（学会誌の表紙裏、または学会ホームページにも掲載されています）をご覧ください。また、特に、査読や入稿を円滑に進めるために、英文要約と英語のキーワード表記についても、ネイティブチェックを行うなど、十分にご配慮ください。

投稿に際しては、下記「投稿先住所」まで、必ず簡易書留でご送付ください。

■ 投稿先住所 ■ 184-8501 小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学教育学研究室内
日本教育メディア学会事務局内「学会誌編集委員会」宛

「教育メディア研究」投稿規定

制定 平成 6年4月1日
改正 平成 11年1月9日
改正 平成 11年9月24日
改正 平成 14年4月13日
改正 平成 14年10月14日
改正 平成 15年4月26日

- (1) 投稿原稿は、研究論文(Original Research)、研究ノート(Research Note)、実践研究(Utilization Research)、資料、展望、解説、その他（書評、メディア批評、文献紹介、製品紹介等）とする。
- (2) 投稿原稿は未発表のものに限る。ただし、本学会が主催したり共催などする年次大会等や研究会などでの口頭発表、プリントの場合は、未発表の扱いとする。また第一投稿執筆者は本学会員とする。
- (3) 投稿原稿は、原則としてワープロ原稿（A4 版用紙1枚あたり横40字×縦30行）とする。その際、パソコン・ワープロ機種、氏名、投稿原稿標題を明記したフロッピーを、出力した原稿に添付し、かつ、図版、写真等についても鮮明なものを添付する。なお、英文の投稿原稿もこれらに準ずることとする。なおまた、特に、和文による原稿を原稿用紙で執筆して投稿する場合は、400字詰（横20字×縦20行）を用いること。
- (4) 投稿原稿のうち研究論文、研究ノート、実践研究（以下、研究論文等という）は、査読の対象とする。原則として、400字以内の和文要旨と200語以内の英文要旨及び英文標題を添付する。また、すべての投稿原稿は、5.6語以内の日本語及び英語のキーワードを記述するものとする。
- (5) 研究論文等の原稿は、編集委員会において特に枚数を指定するもの以外は、原則としてワープロ原稿20枚（1万6千字であり、400字詰め原稿用紙に換算して40枚）以内、それ以外の投稿原稿は同じく10枚（8000字、同20枚）以内とする。

(6) 参考文献は、著者名のアルファベット順にして、研究論文等の末尾に一括して表記する。また研究論文によって、脚注または原文の末尾に「注」の形式で、参考文献ないし引用文献を記述したい場合は、脚注ないし文末に(1)(2)のように番号を入れ、論文の展開に従って番号順に表示することができる。なお、本文中での参考文献の引用は、次のようにすること。

(例) 波多野 (1960) は・・・・・・
 Jonassen(1998a)は・・・・・・
 あるいは、
 ・・・・・・・といている (波多野, 1960)
 ・・・・・・・といている (Jonassen, 1998a)

(7) 参考文献の記述形式は、雑誌の場合、著者、発表年、論文名、雑誌名、巻数、論文所在ページの順とし、単行本の場合、著者、発行年、書名、発行所、発行地の順とする。

(例) 雑誌等 東 洋 (1976) 「教育工学について」『日本教育工学雑誌』 1, 1-6.
 Snow, R. E., Tiffin, J., & Seibert, W. F. (1965), Individual Differences and Instructional Film Effect, *Journal of Educational Psychology* 56, 315-326.
 坂元 昂 (1979) 「教育工学の定義」『新教育の事典』 平凡社 1-6.
 単行本 波多野完治 (1956) 『視聴覚的方法の心理学』 日本放送教育協会.
 Dale, E. (1969) *Audiovisual Methods in Teaching*, Holt, Rinehart & Winston: New York.
 翻訳 Lesser, G. (1974) *Children and Television*, Vintage Books. (山本忠訳 『セサミストリート物語』 サイマル出版 1976)

(8) すべての投稿原稿は、その複写したもの 3 通を含めて合計 4 通を簡易書留で、184-8501 小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学教育学研究室内「日本教育メディア学会」編集委員会あて、封筒の表には「投稿原稿在中」と朱書きして、送付する。なお、特にワープロ原稿の場合には(3)に従ってフロッピー等も必ず添付することとする。

【会員情報】

新入会員

<正会員>	寺岡 聖豪 (福岡教育大学)	臼木 裕美 (由利本荘市立松ヶ崎小学校)
	田畑 圭介 (金沢学院短期大学)	國田千恵子 (金沢学院短期大学)
	坂本 旬 (法政大学)	小林 淳一 (金沢学院短期大学)
	渡辺 直勇 (金沢学院短期大学)	高田 浩二 ((株)海の中道海洋生態科学館)
	鈴木 彰 (横浜市立大綱小学校)	エリック・ブレイ (四日市大学)
	毛利 美穂 (大手前大学)	近藤 武夫 (東京大学)
	白鳥 義明 (城西大学)	藤田 文 (大分県立芸術文化短期大学)
<学生会員>	八木 秀文 (熊本大学大学院)	安田 洋介 (上越教育大学大学院)

退会者

佐々木正實 長谷川典子 池田 実奈

名誉会員 1名 正会員 310名 学生会員 50名 団体会員 7団体 購読会員 11団体
 会員総数 379名・団体等(平成21年8月1日現在)

◆ 学会費納入のお願い ◆

本学会会費は、前納制です。

2009年度(2009年4月1日から2010年3月31日)及びこれ以前の会費納入は、年次大会会場でも受け付けておりますので、会費未納の方は、会場内の学会事務局で、納入をお願いいたします。また、納入の確認もできますので、学会事務局に、お立ち寄り下さい。

正会員の年会費は7,000円、学生会員は4,000円です。

なお、会場では新入会員の受付手続きもしておりますので、これを機会に、まだ学会員でない方へぜひ入会をお勧め下さい

◆ 連絡先住所変更等の事務局あて通知についてのお願い ◆

住所等変更になった場合には、「会員名簿」(2008年3月発行)に記載の用紙、または、「はがき」で、速やかに事務局宛、ご連絡くださいますように、お願いいたします。

学会経費を有効に使用するため、原則として、「受取人転居先不明」等で、事務局宛に送付物等が返送された場合には、その時点で「発送を停止」いたしますので、ご了解ください。

会員の皆様のご理解とご協力を、重ねて、お願い申し上げます。

◇ ご注意 ◇

過日、会則及び選挙規定に従って、第6期理事選挙が行われ、会長等役員交代が、平成21年9月12日(土)の総会后、正式に行われます。

これにともなって、学会運営の効率化と会員の皆様へのサービス等の効果的なご提供等の観点から、事務局の移転、年会費振込「郵便振替口座」など、変更となる場合がありますので、学会ホームページ、今後の学会通信などの情報に、特にご留意されますよう、お願い申し上げます。

◇ 日本教育メディア学会 事務局 ◇

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学教育学研究室内
電話 042-329-7344

学会ホームページ URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaems/>

Eメール shijaems@u-gakugei.ac.jp

郵便振替口座 00130-4-103021

口座名 日本教育メディア学会

(平成21年8月10日現在)